

**製品名: MIPP ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab13913**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

## 抗原情報

遺伝子名	MINPP1
別名	MINPP1; MIPP; Multiple inositol polyphosphate phosphatase 1; 2; 3-bisphosphoglycerate 3-phosphatase; 2,3-BPG phosphatase; Inositol; 1,3,4,5)-tetrakisphosphate 3-phosphatase; Ins(1,3,4,5)P(4) 3-phosphatase
遺伝子 ID	9562.0
SwissProt ID	Q9UNW1
免疫原	抗血清はヒト MINPP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 328-377

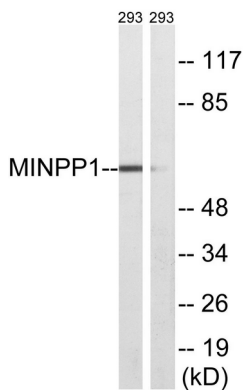
## 背景

この遺伝子は、イノシトールリン酸基質から 3-リン酸を除去する酵素である多重イノシトールポリリン酸ホスファターゼをコードしています。イノシトールペンタキスリン酸およびイノシトールヘキサキスリン酸を加水分解することが知られている唯一の酵素です。また、この酵素は 2,3-ビスホスホグリセリン酸 (2,3-BPG) を 2-ホスホグリセリン酸に変換します。以前は解糖経路のラポポート・ルーベリングシヤントにおける 2,3-BPG 合成酵素/2-ホスファターゼ (BPGM) に限定される活性であると考えられていた。[RefSeq 提供、2009 年 9 月],触媒活性: ミオイノシトールヘキサキスリン酸 + H(2)O = ミオイノシトールペンタキスリン酸 (混合異性体) + リン酸。疾患: MINPP1 の欠陥は、濾胞性甲状腺腫瘍の発達に関係している可能性がある。機能: ホスホイノシチド 5-およびホスホイノシチド 6-ホスファターゼとして機能し、イノシトールペンタキスリン酸 (InsP5) およびイノシトールヘキサキスリン酸 (InsP6) の細胞内レベルを調節する (類似性による)。骨の発達 (軟骨内骨化) に役割を果たす可能性がある。組織特異性: 腎臓、肝臓、胎盤で最も高いレベルで発現している。、

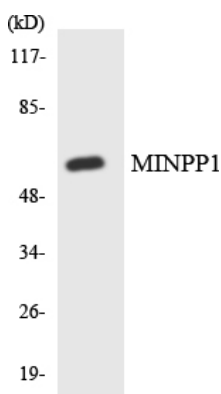
## 研究分野

イノシトールリン酸代謝;

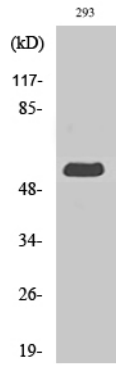
## 画像データ



MINPP1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



MINPP1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



MIPP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析